

花王石鹼(株) 花王生活科学研 ○加藤真弓 重弘文子

家庭品企画本部 藤本典裕 峰岸 裕

〔目的〕家庭洗濯に欠かせない洗剤や洗濯機は、最近、社会的要請や技術進歩などによって変化し、多様なものとなってきた。このような状況下での洗濯行動の一端を明らかにし効果的な家庭洗濯を考える手がかりとした。

〔方法〕首都圏の普通世帯の主婦433名を対象に、昭和58年7～8月、洗濯行動について調査し、過去の調査結果から経年変化をみた。また、一部の家庭については、洗濯物の種類や洗濯機の機種名、洗い方などの記録と洗濯液の採取を依頼し、洗濯物の重量や洗濯水量、浴比、洗剤使用濃度などを推定した。

〔結果〕洗濯頻度、仕分け、洗濯液の繰り返し使用、すすぎ方法など、大まかにみると、ここ数年大きな変化はみられなかったが、今回の行動調査により次の知見が得られた。

- ①ワイシャツの衿・袖口、靴下等の落ちにくい汚れに対しては普通洗濯以外に部分洗いや漬けおき洗いなどが行なわれており、家庭での工夫がうかがわれる。漬けおき洗いは、従来ヨーロッパで慣習となっていたが、日本でもここ数年増加してきたことが認められた。
- ②洗濯機は大型化の傾向にあり、洗濯容量は種々である。実際の洗濯物重量と水量の調査結果によると、洗濯機に表示されている標準洗濯容量の約80%以下で洗濯している家庭が多く、これは汚れ落ちや洗いムラの防止の点からみると好ましい。
- ③洗剤を計量している家庭は約80%ある。実際に洗濯液の洗剤濃度を調べてみると、計量している家庭では、平均値がほぼ標準使用濃度と一致した。計量していない家庭ではバラつきが大きく、標準使用濃度以下で洗濯している家庭での洗浄力低下が懸念される。